

広報とよはし新コーナー「豊橋の家康をめぐる」連載開始！！

令和5年1月8日（日）から、徳川家康を主演とする NHK 大河ドラマ「どうする家康」の放送が開始されます。大河ドラマの放送に合わせ、広報とよはしでは新コーナーを制作し、連載を始めました。豊橋市内にある徳川家康ゆかりの地を、時代背景や政治的背景、考古学・地理学などからの考察も交え、「学芸員だからこそ語ることのできる“豊橋の家康”」を紹介していきます。

1 掲載号について

令和4年12月号から開始し、以降2か月に1回、1年間で計7回、連載します。

<掲載号と掲載内容>

	掲載号	掲載内容（令和5年2月以降は予定）
第1回	令和4年12月	竹千代強奪事件と大津湊（大津湊、太平寺、高縄城）
第2回	令和5年2月	飽海神戸神明社と家康、忠次
第3回	令和5年4月	徳川家康の吉田城攻め
第4回	令和5年6月	酒井忠次、武田信玄、織田信長と吉田城
第5回	令和5年8月	徳川家康と賀茂神社
第6回	令和5年10月	豊橋に残る徳川家康や酒井忠次の判物
第7回	令和5年12月	総括

2 見どころポイント

ポイント1 ネタは「オール豊橋」！意外と知られていない家康と豊橋のつながりがまるわかり！

鳳来山東照宮や長篠合戦場など、東三河には全国的にも有名な家康ゆかりの史跡が存在します。一方で、豊橋市内の家康ゆかりの地となると、多くの人が認識していません。これを読めば豊橋と家康の関連がまるわかり！とばかりに、市内各所のゆかりの地を紹介していきます。

ポイント2 学芸員だからこそ語ることのできる「豊橋の家康」

ゆかりの地をスポット的に取り上げるのではなく、時代背景や政治的背景、考古学・地理学などからの考察も交え、学芸員ならではの視点から紹介します。

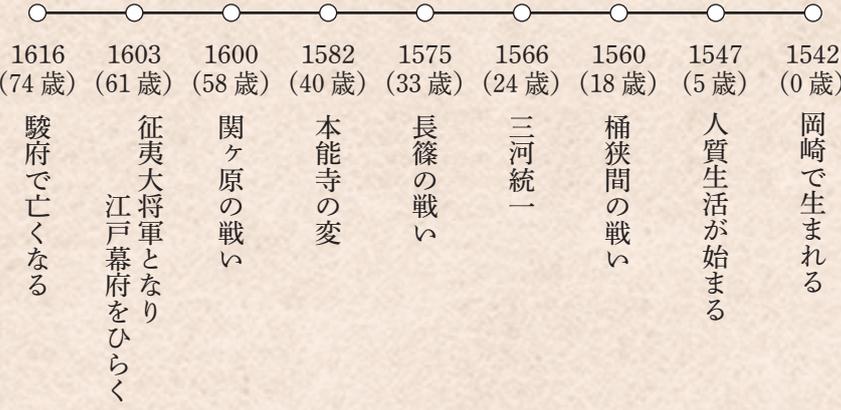
いわゆる「歴史学」は古文書の解読が中心ですが、そこに豊橋の考古学・地理学を専門とする学芸員の「山の上にあった…」とか「当時の川の流れはこうだったので…」という考察が加わることで一層深みのある紹介ができるところが見どころです。

家康をめぐる

第1回

竹千代強奪事件と大津湊

今回はこのあたりのお話



豊橋市内の徳川家康ゆかりの地を、2か月に1回の連載で学芸員が紹介します。



問合せ 文化財センター ☎56・6060

徳川家康が竹千代と称した子どもころ、苦難に満ちた生活を送ったことはご存じの方も多いのではないでしょうか。家康は青年になるころまで、松平の姓を名乗っていました。岡崎城を本拠地にした松平氏は、尾張（現在の愛知県西部）の織田氏、駿河・遠江（現在の静岡県）の今川氏の二大勢力に挟まれ、苦境に立たされていました。そこで当主である松平広忠は、家を守るため、息子の竹千代を今川氏に人質として差し出すことになりました。人質となるべく駿河に向かった竹千代は、岡崎を南下して、当時「西郡」と呼ばれていた現在の蒲郡の湊から船に乗りました。そしてたどり着いたのが、継母の実家である戸田氏の勢力下にあった「大津湊」、現在の老津町です。ところが、信賴していた戸田氏の裏



太平寺の開かずの門
太平寺は、平安時代の末期に創立したと伝わる古刹です。江戸幕府から葵紋の使用を許され、裏山には小さな東照宮があります。

切りにより、竹千代は船で尾張の織田氏へと送られてしまいました。
この一件は、「竹千代強奪事件」としてよく知られています。ここで注目したのは戸田氏の勢力下にあった大津湊です。少し、大津湊のことを紐解いてみましょう。
老津町は豊橋市の南部にあります。老津と名乗ったのは明治11（1871）年からでそれより前は「大津」と称していました。大津とは、大きな湊港のことです。かつては三河湾沿岸を代表する戸田氏が支配する重要な湊町でした。そして、湊の宗教的な拠点であったのが太平寺です。太平寺は、数多くの文化財を所蔵している臨済宗の寺院で、大津湊や戸田氏とともに発展した歴史があります。この寺と本堂正面の「開かずの門」には、若いころの家康が今川氏との戦いの中で逃げ込んだという、言い伝えがあります。



高縄城址（現在の家政高等専修学校）
校門に説明の標柱があり、東側の道路は堀があったところです。戸田氏が知多半島の河和から進出してきたときに築られました。

ところで、竹千代強奪事件の舞台になった湊は、具体的には老津町のどこにあったのでしょうか。戸田氏の居城である高縄城は、現在の家政高等専修学校の位置にありました。戸田氏は水軍を率いて三河湾の制海権を握った有力者であり、城のすぐ下には船着き場を設けました。現在の地形を考え合わせると、大津湊の位置は紙田川の河口に当たる、現在の259号線バイパスから豊橋鉄道渥美線の老津駅、そして家政高等専修学校付近にかけて広がっていたと推定できます。

現在は、農業地帯に姿を変えた湊町。大津。豊橋鉄道渥美線で老津町を訪ねながら、繁栄した湊町の風景を思い描き、幼き家康の苦難を想像するのも悪くはありません。